

不妊に悩む方への特定治療支援事業の実施医療機関における情報提供様式（任意記載）

本項目についての記載は、必須ではありません。下記記載様式を用いて、可能な範囲で記載して下さい。

治療実績について

※ 施設における、不妊治療による治療成績を記載して下さい。

（記載様式） 2020年データ

当院において、データの揃っている直近の1年間（1月から12月まで）に、治療開始時点において35歳以上40歳未満である女性に対して実施した治療の実績は以下の通りである。

【新鮮胚（卵）を用いた治療成績】

	IVF-ET	Split	ICSI	合計
採卵総回数（回）	28	116	118	262
移植総回数（回）	17	109	90	216
妊娠数（回）	13	82	56	151
生産分娩数（回）	7	42	35	84
移植あたり生産率（％）	41.2	38.5	38.9	38.9

IVF-ET：採卵により得られた全ての卵子に対し、体外受精を実施

Split：採卵により得られた卵子に対し、体外受精と顕微授精に分けて実施

ICSI：採卵により得られた全ての卵子に対し、顕微授精を実施

【凍結胚を用いた治療成績】

	融解胚子宮内移植
移植総回数（回）	1005
妊娠数（回）	476
生産分娩数（回）	252
移植あたり生産率（％）	25.1

来院患者情報

※ 施設を受診した患者数について記載して下さい。

（記載様式）

データの揃っている直近の1年間（1月から12月まで）に体外受精・顕微授精・胚移植を行った患者数（実数）は

25歳未満 ：（ 10 ）名
 25歳以上30歳未満 ：（ 18 ）名
 30歳以上35歳未満 ：（ 112 ）名
 35歳以上40歳未満 ：（ 257 ）名
 40歳以上43歳未満 ：（ 111 ）名
 43歳以上 ：（ 103 ）名

データの揃っている直近の1年間（1月から12月まで）に精巣内精子採取術を行った患者数（実数）は

20歳未満	：	（	0	）	名
20歳以上 30歳未満	：	（	0	）	名
30歳以上 40歳未満	：	（	0	）	名
40歳以上 50歳未満	：	（	0	）	名
50歳以上	：	（	0	）	名

治療指針について

※ 施設における統一された治療指針がありましたら記載して下さい。

（治療指針の例）

- ・治療のステップアップ・ステップダウンに関する考え方
- ・年齢に応じた治療の選択
- ・調節卵巣刺激法（自然周期・低刺激、高刺激等）の選択 等

①治療適応を重視

内診、超音波検査、ホルモン検査、卵管造影検査、精液検査、フーナーテストを早急を実施し、検査結果で不妊原因を明確にした上で、適応治療を進めている。Step-upという考え方ではない（万全と適応のない治療はすすめない）

②ART治療を行っている患者でも年齢が高くなると治療成績は低下するため、受精を確認できている患者では費用対効果を考慮し、人工授精治療や自然での妊娠を望むように、step-downをすすめることがある。

③調節卵巣刺激に関しては、初回ショート法で行うが、卵巣の反応性や卵の質で2回目以降は積極的に誘発法変更（ミニマル法、ランダム黄体期法、PPOS法など）する。

また、がん患者の卵子・胚凍結に関しては、日程に余裕がないため、来院時より、ホルモン値に合わせて、アンタゴニスト法、ランダム法、PPOS法など適宜誘発を選択して卵巣刺激を行っている。

令和 4年 3月 26日

医療機関名 アイブイエフ詠田クリニック